

## 福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（2月）

氏名：山本彩乃

留学先：ハンブルク大学

2月になると、授業も終わり長期休みが始まります。私はこの長期休みを利用して、南ドイツ、イタリア、ポーランドに旅行に行くことにしました。どの国も昔から世界史やテレビなどで見聞きしていた国ですが、実際にその土地に行き、自分の足で歩き旅をする事でその国に対する印象ががらりと変わったり、面白さの再発見が出来て、とても充実した一か月を過ごすことが出来ました。

### ● 長期休み中の旅行

イタリアでは、ミラノ・ヴェネツィア・フィレンツェ・ローマに行きました。どの地域もとても活気があり、オフシーズンにも関わらず観光客らしい人たちが大勢歩いていました。イタリアは町を歩くだけでとても楽しく、見慣れたハンブルクの街並みと比較しながら散策していました。私が特に気になったのは、マリア様がどの街の建



物でも描かれていたり、像がおかれてあったりしたことです。ハンブルクではこのようなものはあまり見たことがなかったので、とても興味深かったです。イタリアはキリスト教でもカトリック、ドイツはプロテスタント派が多いという違いからくるのでしょうか？



か？街並みの小さな差異で、文化の違いを感じる事が出来ました。

ポーランドでは、クラクフ・ワルシャワ・トルン・グダニスクに行きました。ポーランドは予想以上にとっても良い国でした。治安もヨーロッパの中では良く、物価も安く、強烈な刺激を与えてくれる施設もたくさんありました。特に印象的だったのは、アウシュビッツ強制収容所とワルシャワ蜂起博物館です。アウシュビッツ強制収容所は、ポーランドに来たからにはどうしても行きたかった所の一つです。実際に大量虐殺が行われた場所に行き、大量の靴や髪の毛、写真などを見て、真に実感がわきました



た。人間が、理性も教養もある時代に、狂った事を行っていたことを。ワルシャワ蜂起博物館にも、私はアウシュビッツ強制収容所と同じくらいの力強さを感じました。ここにはなんと、日本語オーディオガイドがあります。物凄い情報量で、戦時中のポーランドについてとても詳しく知ることが出来ます。この博物館では、ポーランド人が、ポーランド人であろうとする熱量を感じる事が出来る。占領されて、日本人ではなくなったことのない日本では感じる事の出来ない熱気を感じる事が出来る面白い博物館でした。

南ドイツでは、フランクフルト、ローテンプルク、バンベルク、クリムバッハ、ミュンヘン、そしてホーエンツォレルン城に行きました。ホーエンツォレルン城とはプロイセン王国の王室であり、ドイツ帝国の皇帝家であったホーエンツォレルン家の居城でした。上記の二国とは違い、ドイツ語も英語も通じるので比較的安心して旅行することが出来ました。



上記の二国とは違い、ドイツ語も英語も通じるので比較的安心して旅行することが出来ました。切符を買う事や、ホテルのチェックインなどはドイツ語で対応することが出来、この留学でドイツ語能力が向上できたという事が実感できてうれしかったです。

#### ● 帰国準備

旅行の合間を利用して、2月は帰国準備もちやくちやくと進めなくてははいけません。寮の管理人さんに退寮日を伝える事、TK（ドイツの保険）の解約、ハンブルク大学除籍の手続き、銀行口座の閉設。やる事は沢山あるように感じますが、ドイツに来た当初の手続きより簡単です。比較的すぐ終わります。私は不安だったのでチューターにサポートしてもらいながら進めていきました。また、留学当初からもらえる **Semesterticket**（ゼメスターチケット）、所謂バスや電車を乗るときに使える定期券も、そのような定期券を専門に扱っている窓口で返却すれば、残りの日付分お金が戻って来ます。